

氏名	脇 隆 博
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第5447号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Interfractional Seminal Vesicle Motion Relative to the Prostate Gland for Image-guided Radiotherapy for Prostate Cancer with/without Androgen Deprivation Therapy: A Retrospective Cohort Study (前立腺癌患者におけるホルモン療法の有無による照射期間中の精嚢位置移動の違いについての後ろ向きコホート研究)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 樋之津史郎 准教授 渡邊豊彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

放射線治療前にホルモン療法を行うことで前立腺容積が減少することが知られており、その結果、照射野の減少と有害事象の低減につながることを示されている。しかし、ホルモン療法により精嚢長や精嚢移動量が減少するかは明らかになっておらず、精嚢長や精嚢移動量が減少すれば、より放射線照射野を縮小する事が可能になる。

これまで照射前ホルモン療法の有無によって、精嚢長および精嚢移動量についての比較検討は行われていないため検討した。

ホルモン療法群で精嚢長は左右ともに有意に短かった。精嚢移動量については精嚢先端、精嚢中心いずれも差が見られなかった。

ホルモン療法群は非ホルモン療法群と比べて精嚢長が短い分、照射野を小さくすることが可能であるが、精嚢移動量には差が見られないため、治療計画時の動きに対するマージン設定はホルモン療法の有無に関わらず同様にするべきである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は前立腺癌の放射線治療前にホルモン療法を行うことで、精嚢長や精嚢移動量が減少するかどうかを検討したものである。精嚢長や精嚢移動量が減少した場合、より放射線照射野を縮小することが可能になる。ホルモン療法群で精嚢長は左右ともに有意に短かったが、精嚢移動量については精嚢先端、精嚢中心のいずれも差が認められなかった。ホルモン療法群は非ホルモン療法群と比較して精嚢長が短いものの、精嚢移動量には差がなく、治療計画時の精嚢の動きに関するマージン設定はホルモン療法の有無にかかわらず一定にすべきであるという臨床上重要な治験を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。